



「ハクサイダニ」について

冬の害虫発生が少ない時期に、春菊などの葉菜で葉が白っぽくなつて枯れる症状が発生したことがありませんか？株や葉の裏をよく見ると、動きが速く、胴が黒色で、赤い足が8本ある1mm程度のアブラムシのような虫がいれば、ハクサイダニと呼ばれる害虫である可能性が高いです。

ハクサイダニの被害は、以前には、ホウレンソウなどの葉菜類でわずかに知られる程度でしたが、近年はアブラナ科野菜、レタスなどに被害が拡大するとともに発生量も年々増加しています。



① 形態

成虫の胴体は黒色で、足は8本あり、赤色をしています。胴の長さは0.7mm程度と他のダニ類と比較するとひと回り大きく、動きが非常に速いことが特徴です。作物の葉脈付近に群生することもあります。卵は橙色から赤色、楕円形をしており、作物上や土壌などいたるところに産み付けられます。産卵は1粒ずつですが、特に葉脈沿いや狭い場所が多く産み付けられます。



② 被害

被害を受けた葉は白色となり、ひどくなると株が枯れます。芯葉に被害があると、生育が止まってしまいます。ハクサイなどでは結球内側でも被害を与えます。この害虫は、昼間は葉の陰や地面に隠れ、夕方や曇り



の日に葉の上に移動して被害を与えます。

被害が発生する作物の種類は、ハクサイ、カブ、キャベツ、ダイコン、ブロッコリー、レタス、シュンギク、ミズナ、ニンジン、ホウレンソウ、ネギのほか、イチゴ、にも被害があります。

③ 生態

温度が低い時期、主に冬に成虫は活動します。夏を越した卵は10月～11月頃にふ化し、幼虫、第1～第3若虫と経て11月～12月に成虫となります。年間1～2世代を経過し、成虫は12月と3月に発生が多くなります。成虫は5月上旬頃まで活動しますが、夏は卵で越します。

④ 防除対策

このダニは、雑草や収穫後の残さにも生息し、特に残さは卵が多く産み付けられるため、まずは残さを確実に処分することや、場周辺の除草が大切です。被害の多かった場合は、翌年の冬にも発生が予想されるため、生き残った卵を防除することが大切です。夏期にハウスを密閉または土壌にビニール被覆を実施するなどして熱処理を実施することが有効です。

